

# 2025年度 とうきょう すくわくプログラム活動報告書

東京都町田市原町田 5-5-20  
小規模保育所 つながりづくり保育園・原町田β

## <活動のテーマ>

自然

## <テーマの設定理由>

当園には園庭がないため毎日近くの公園へ散歩にいき、季節ごとに変化する自然や身近な生き物に触れて過ごしている。こうした自然との継続的な関わりに加え、自然体験を日常生活へつなげる活動も行っている。こうした経験を通して自然への興味が高まっていることから「自然」をテーマとして設定し、子どもたちの関心をさらに深めていきたいと考えた。

## <環境の設定・準備>

文房具、雨カッパ、野菜・植物栽培備品、調理器具、たき火用品、書画カメラ、  
図鑑・絵本等

### 【ぬか床活動】

#### ①ぬか床を作る

近所のお米屋さんからぬかをもらったことをきっかけに、ぬか床を作ってみる。一回目はカビが生えてきて、何がダメだったのかを調べ、もう一度作る。二回目は発酵もうまくいき完成する。発酵の過程で香り、ぬかの感触の変化に気づいていた。また、材料をそろえる中で地域との交流にもつながった。



#### ②完成して食べる

ぬか床が完成して、自分たちで夏に栽培していたキュウリを漬ける。キュウリが漬かると、キュウリそのものの変化に驚き、観察していた。食べてみると、ぬかの香りを感じていた。



### ③様々な野菜を漬けてみる

キュウリのぬか漬けを食べてみて、「次はこの野菜食べてみたい」とサークルタイムの中でこどもたちから話が出たことから、いろいろな野菜を漬けていく。様々な野菜を試していくことで野菜の名前や香りなどに興味を持つきっかけとなっていた。八百屋さんにも通って様々な野菜に興味を持っていた。

### ④地域との交流への広がりへ

近所の商店街で材料をそろえる際に、いろいろ教えてくださった乾物屋さんやお米屋さんへ完成したぬか漬けを勤労感謝の日に届けにいった。自分たちの作ったものをどのように作ったのか語りながら渡すことができた。また、とても喜んでもらえて達成感があった。



### ⑤活動の広がり

当初は衛生面からかき混ぜるのは保育者が行っていたが、こどもたちもやりたい意欲を見せたので一緒に混ぜるようになっていった。2歳児を中心に行っていたが、次第に1歳児も興味を持つようになり園全体での活動へと広がっていった。

### ⑥大根を育ててみる

ぬか床に入れるものを育ててみるのはどうかと提案。

冬に育てられる野菜を調べ、大根とニンジン

を育てることにする。栽培の方法を調べ、道具を用意する。

種を観察してここから本当に大根やニンジンができるのかと目を光らせていた。

発芽して大きくなっていく過程で、大根の葉の形の葉っぱが出てくると食べられる日を楽しみに

水やりをすることが習慣となっていた。



## 【かぶとむしのお世話】

### ①幼虫のおうちをきれいにする

5月にカブトムシの幼虫を頂いた。お世話を保育者が行っていると興味をもって観察する子がいた。

参加してくれる子が増えていき、徐々に一緒に行えるようになる。

お世話をしながら、幼虫に触れてみたり、動きをよく見たり

興味が広がっているようだった。



## ②さなぎになる変化

世話を続けるうちに、幼虫がさなぎになったところを見ることができた。

こどもたちも変化に気づきなぜ動かないのかなど

こどもたちなりに考える姿があった。

考えた結果【ねているんだ】という結論に至りさなぎの側では静かに触らずに観察を続けていた。



## ③ようちゅうさんは？

ある日さなぎが成虫に変化した。その瞬間は見るができなかったもののさなぎがないことに気づき、さらにカブトムシがいることに気づく。しかし、さなぎがカブトムシになったことを保育者が説明するものの、さなぎがカブトムシになるということを連想できず不思議に思っているようだった。



## ④カブトムシ

成虫になったカブトムシが増えていった。登園してくるとカブトムシのゼリーを交換するのが日課となる子も出てくるくらい興味をもって接してくれていた。日ごとに弱っていき、心配そうに見つめ、最後はもらった場所にお墓を作りにいっていた。

## ⑤卵が産まれた

カブトムシから生まれた卵も大事にお世話した。どんな環境が良いのか調べ、霧吹きをしてくれた。しばらくすると小さな幼虫が出てきて、「あかちゃん！」と喜びを感じていた。

だんだんと大きくなり脱皮をするとこやフンがそれに合わせて大きくなってくところを観察することができた。「ようちゅうさんいつかぶとむしになるかな」とずっと観察してきた子は成虫になるのを楽しみしている。



## 【お散歩へ】

### ①園外の遊びのつづき

園庭のない環境のため、毎日散歩へ行く。  
散歩に行くとさまざまな自然物を探して  
持って帰ってくる。  
持ち帰った植物を調べたり、種類ごとに  
分けたりして園に戻ってから遊びが  
広がっていった。



### ②園内の遊びをお散歩でも

園内で自然物を使用した遊びを十分に行ったことで、  
こどもたちから図鑑を持っていくことを提案される。  
図鑑を持っていくと、咲いている花と図鑑の中の花を見比べたり  
見つけた鳥と図鑑を見比べたり図鑑と実物を比較していた。



## 【テラスにもお花を】

日ごろの活動の中でお花を見つけるととってきて園に飾ることが多いため、園の中でもお花を育てられるように準備をする。

チューリップのうたが好きなこどもが多いことから、親しみにあるチューリップを植える。

球根からチューリップは連想するのは難しそうだったが、プランターに植えると、水やりをして成長を観察していた。

温かくなり一気に葉の背が伸びると、「おおきくなった」「チューリップの葉っぱだ」と知っているものの形が見えてようやくチューリップと認識していた。

しばらくしてチューリップの花が咲くと「みて！さいたよ」

「あかがさいた」「むらさきだけなんでさかないんだろう」

と話していた。花がさくとすぐに咲き

終わってしまい、がっかりする姿が

あったので、最後は花びらを

押し花にして残した。



### 【保育者の気づき振り返り】

今回の活動を通して、自然との関わりは一つの体験で終わるのではなく、日々の生活の中でつながりながら広がっていくものだと改めて感じました。ぬか床づくりから始まった活動が、野菜への興味や栽培、地域の方との関わりへと広がっていったのは、「これもやってみたい」というこどもたちの声や姿があったからだと思っています。

また、2歳児を中心に始まった活動が、いつの間にか1歳児も一緒に関わるようになり、年齢に関係なく興味をもって関わる姿が見られました。散歩に凶鑑を持っていく姿からも、見たものを確かめようとする姿や、知ろうとする気持ちの育ちを感じました。

保育者自身も、最初は見守ることや安全面を優先して関わっていましたが、こどもたちの「やりたい」という思いに背中を押され、一緒に取り組むようになっていきました。その中で、こどもたちが自分から関わることで生まれる気づきや発見の豊かさを改めて感じています。

園庭がない環境ではありますが、日々の散歩や地域との関わりを通して、こどもたちの自然への興味は十分に広がっていくことを実感しました。これからも、こどもたちの気づきやつぶやきを大切にしながら、活動が自然とつながっていくような関わりをしていきたいです。